

# 桑野塾

桑野塾

検索

<http://deracine.fool.jp/kuwanojuku/>

大学などの研究者に限らず、興味を持って研究していることを自由に発表しあう「広場」です。どなたでもご参加いただけます。それぞれの興味が少しずつ重なり合うことで、新たな知見を見いだそうという場です。

## 第44回

2017年  
6月17日(土)  
15:00 ~ 18:00

早稲田大学 早稲田キャンパス16号館 820号室

★ どなたでもご参加いただけます。会場に直接お越しください。

**参加無料**

☆ 終了後、近くの居酒屋で懇親会を開催します。(飲食費は別途)

※予約の都合上、懇親会参加をご希望の方はなるべく事前にご連絡いただくと助かります。

※報告者・タイトルは変更の可能性もあります。ご了承ください。



## ロシア・モダニズム音楽におけるジャポニスム ～ストラヴィンスキーとルリエーの和歌歌曲を例に～

報告者：高橋 健一郎

### ロシアで歌曲になった日本の和歌

1910年代から20年代にかけてロシアでは和歌のロシア語訳に多くの歌曲が書かれた。その中からイーゴリ・ストラヴィンスキーの《3つの日本の抒情歌》(1913年)とアルトゥール・ルリエーの《日本組曲》(1915年)を取り上げる。

二人の作曲家は伝統的な西欧音楽の基本である構築的な調性音楽を否定し、新しい音楽を模索したが、興味深いことに、その際に二人とも日本や東洋の芸術に目を向け、共にその中の「次元」や「遠近法」に着目した。しかし、これら二つの組曲ではその志向性が正反対とも言えるほど対照的であった。

それらの考察を通して、20世紀初頭のロシアのモダニズム音楽にジャポニスムが与えた影響を考える。

●高橋 健一郎(たかはし けんいちろう) 札幌大学地域共創学群教授。

専門はロシアの言語と音楽。

著書に「アレクサンドロフ 忘れられた天才作曲家」(東洋書店)。「日本アレクサンドロフ協会副会長」。



イーゴリ・ストラヴィンスキー



アルトゥール・ルリエー

## バレエ《魔法の鏡》と1900年代ロシア帝室劇場における変化

報告者：平野 恵美子



「帝室劇場年鑑」に掲載された初演時のスチール写真(「女王」)

### 偉大なる振付家プティパの“失敗作”とは

マリウス・プティパ(1818-1910)は、今日のクラシック・バレエを確立した最も偉大な振付家の1人である。彼が最後に振付けたバレエ《魔法の鏡》(1903)は、30年以上の長きに渡り、ロシア帝室劇場のバレエ・マスターとして君臨したプティパの記念公演のために鳴り物入りで上演されたが、「大失敗」に終わり、プティパの事実上の引退を決定づけたとされる。《魔法の鏡》は「失敗作」として、これまであまり注意を払われて来なかったし、作品自体も失われてしまった。

本報告では、舞踊学的な分析というよりも、この作品の「失敗」が、1900年代のロシア帝室劇場とバレエ史においてどのような意味を持つのか、美術や音楽など多方面から考察する。

●平野 恵美子(ひらの えみこ) 東京大学助教。

帝室劇場やバレエ・リュスなどを中心とした芸術文化研究が主なテーマ。

共訳「ラフマニノフの想い出」(水声社、2017年7月刊行予定)



上下とも A・ゴロヴィーンによる舞台美術のエスキース(1903)